

<平成30年度 ハローオリピズム事業>

# オリンピック教室

実施報告書

神奈川県 川崎市立玉川中学校





平成21年4月の学習指導要領の改訂以来、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されています。その中で、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容には、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」とオリンピックの意義が明示されています。そこで、JOCでは、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められており、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことのできない感動が生まれることを期待しております。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

また、「スポーツ基本法」の前文の一部には、「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習することで、この基本法に記された精神や態度が日常生活の中で具現化され、生涯にわたってスポーツに親しむことができるようになることを願っています。

- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）  
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成30年4月～平成31年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 60校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目  
運動の時間 (50分)



2時限目  
座学の時間 (50分)



※学校の通常の授業時間をベースに実施  
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

## 1時限目

### 運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、  
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介  
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動  
（作戦タイム等を設け、  
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

## 2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、  
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に  
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると  
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

### 座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用  
した自己紹介



オリンピック自身の経験に  
基づく「オリンピックの価値」等  
を伝える



グループ（個人）ワークで  
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

# 実施内容

■期 日：平成31年1月29日（火）

■ク ラ ス：2年A組（39名）、2年B組（39名）

■オリンピアン：室伏 由佳 先生（陸上競技）【出場オリンピック／アテネ大会】

■授業のながれ：運動の時間（3時限、5時限）

## 1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介の後、3つのオリンピックバリューについて「エクセレンス＝卓越性、優れていること、惜みずに努力すること」「フレンドシップ＝友情、お互いの違い等を理解し合うこと」「リスペクト＝尊敬、ルールを守ること、お互いに高め合うこと」と説明。
- ・準備体操として、体側伸ばし、ジャンプを実施。続いて、A組ではダイナミックストレッチ、B組では歩き鬼ごっこを実施した。

## 2. 準備体操



## 3. 主運動



- ・2班毎3チームに分かれて8の字跳びを全3回（90秒間）実施。3つの競技名と言順番を決める。一人1競技名を言いながら跳び、3つの競技名を言って跳べたら1巡とし、時間内に何巡できたかを数える。
- ・どのチームもしっかりとコミュニケーションが取れていたこと、引っ掛かってしまった時もその人を責めたりせず、盛り立てようとしていたこと、相手チームの記録に敬意を表しながら、それを上回れるように最大限の努力をしていたこと等を例に、皆の姿勢が素晴らしかったと生徒を称える。

## 4. まとめ



- ・3つのオリンピックバリューを意識すれば、仲間に対する声の掛け方や受け取り方等も変わると説明。そして座学の時間は、運動の時間の中で感じられた「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」を各自シートに記入してもらったうえで、グループワークを行い、皆の前で発表してもらったと再度予告し、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・オリンピックで着用したユニフォームを見せ、ハンマー投げの経験を通してオリンピックの価値を伝えたいと授業の目的を確認。
- ・オリンピックの歴史について触れ、古代オリンピックの精神を復興させたいと尽力したのがクーベルタンであり、1896年にアテネで第1回近代オリンピックを開催したことを話し、自身の経験を通して感じたオリンピックバリューを説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問：運動の時間に感じたことや近い将来に向けて取り組みたいことを、オリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。
- 発表：負けても他のチームを称える、作戦を立て記録を伸ばすことができた、卓越性を磨くことで本番で結果が出る(エクセレンス)、皆で声を掛け合って協力できた、アドバイスをし、お互いに団結し合う、楽しむことで友情が生まれた(フレンドシップ)、競技を尊敬する、相手を尊重し認め合う、得点の多い班を見て学んだ(リスペクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・オリンピックは人種や宗教を超えてお互いを理解したり尊重したりすることの大切さを明確に感じられる場であり、オリンピックバリューの形成こそが、クーベルタンがオリンピックに求めたものだった。自分の力で得た仲間や学びを大事にして、今後も有意義な学生生活を送ってほしいと伝え、授業終了。

# 実施内容

■期 日：平成31年1月30日（水）

■ク ラ ス：2年C組（39名）、2年D組（39名）

■オリンピアン：坪井 保菜美 先生（体操／新体操）【出場オリンピック／北京大会】

■授業のながれ：運動の時間（3時限、5時限）

## 1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介の後、オリンピアンが大切にしているものとして「エクセレンス＝全力で頑張る、ベストを尽くす」「フレンドシップ＝友情、仲間を思いやり、協力し合う」「リスペクト＝尊敬、感謝、ルールを守る」とオリンピックバリューを説明し、この3つを意識しながら授業に取り組んでほしいと伝えた。
- ・柔軟体操を行った後、ボール取りゲームを全4回実施。

## 2. 準備体操



## 3. 主運動



- ・2班毎3チームに分かれて8の字跳びを全3回(90秒間)実施。90秒間で引っ掛からずに一番多く跳べた回数を競う。
- ・各回終了後、回数とチームで考えた作戦を発表。「引っ掛かった人を責めないようにした」「皆で回数を数えつつ、楽しむことを心掛けた」「丁寧に確実に跳ぶようにした」等の意見が挙げられた。
- ・大縄跳びを全3回実施。(D組のみ実施)

## 4. まとめ



- ・「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」を意識して取り組めたかを生徒に確認したところ、多くの手が挙がる。
- 座学の時間は、運動の時間の取り組みや自身の経験等を通じてオリンピックやオリンピックバリューについて学ぶと予告し、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



・映像を見せながら、新体操チーム・フェアリージャパンの一員として北京大会に出場したことや、競技のルールや手具について説明。  
 ・東京2020大会や近代オリンピック、オリンピックシンボルの意味に触れた後、自身の経験を通じて感じたオリンピックバリューを説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



発問：夢や目標を実現するために何をすべきか考えてみよう。

発表：目標を達成するために前を向いて進む、自分に合った夢を見つけるためにチャレンジをする、部活で結果を残す、夢を叶える、目標を達成するために努力を惜しまない(エクセレンス)、夢を叶えるために仲間と協力する、教え合うことお互いに学び合う(フレンドシップ)、夢を叶えるために支えてくれる人に感謝する、家族に感謝する(リスペクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



・夢をしっかり持ち、そのために何が必要か具体的な目標を描くことで、取り組み方が変わってくる。  
 ・今は小さい頃の夢だった新体操の先生をしなが、ヨガや絵画等、興味あることに次々挑戦していると話し、皆も夢に向かって頑張してほしいと伝え、授業終了。

■ 集合写真  
2年A組



2年B組



■ 集合写真  
2年C組



2年D組



■ 記念品贈呈

2年A組



2年B組



2年C組



2年D組



■ 修了書贈呈

